

地域における「日本語教室の活動」の認知度向上

西14 吉野川市国際交流協会 細谷裕重

1. 研修で設定した課題の背景、および実践の内容

- 吉野川市の日本語教室は、吉野川市国際交流協会（YIA）が運営主体となり、毎週日曜日に市内2カ所で開催している。
- 日本語教室の運営方針は、「外国人にとって心の拠り所」になることであり、単なる日本語学習の場ではなく、外国人が日本人に気軽に悩みの相談ができる環境づくりを目指している。
- そのため教室運営は日本語ボランティアと学習者できるかぎりマンツーマンが望ましいが、実際には必要なボランティア人数が確保できていない状態が続いている。
- ボランティア募集について、これまでも YIA 会員向け会報誌・ホームページに案内を掲載してきたが、十分な成果はあげられていなかった。
- ボランティア活動に興味のある人に「日本語教室の活動」の情報を伝える方法を検討することにした。

2. 実践を通して「行ったこと」「考えたこと」の変遷

コーディネーターとして日本語教室の活動内容を情報発信（2022年8月～）

- ボランティア募集の新たな取組みとして、Facebook の有料広告で日本語教室の紹介をおこなった。その結果、フォロワーは増えたが、ボランティア応募はなかった。
- 日本語教室の活動紹介のため、地元高校・社会福祉協議会などを訪問するも、挨拶程度で今後の活動につながるような話にはならなかった。

【反省】

コーディネーター個人の活動では限界がある。

日本語教室の上部団体である吉野川市国際交流協会（YIA）を巻き込んだの活動に変更

吉野川市国際交流協会（YIA）理事会でのプレゼン（10月29日）

- 理事会にて日本語教室の状況を報告、

YIA では、吉野川市の委託で運営していた「市民向け英会話教室」が令和4年3月で終了、英会話教室の運営にかかわっていた会員の退会が相次いでいた。ちょうど YIA としても協会の運営方針を見直す時期にあった。

理事会で協議の結果、YIA が日本語教室の運営支援をすることは理解を得た。また YIA としても、これまでは会員向けの情報発信が中心であったが、今後は外部への情報発信も積極的に行うことも決定された。

ただ、いきなり「日本語教室のボランティア募集」を発信するのではなく、YIA が行う「外国人との交流活動」としての日本語教室を紹介し、「日本語教室の認知度向上」を目指すことから始めてはどうかとの意見が出された。

「日本語教室の運営」「外国人との交流イベント」の SNS 発信（11月～）

- YIA イベント情報（11月 バスツアー、12月 国際理解講座）を Facebook の有料広告で発信したところ会員以外から参加申し込みがあった。
- Facebook の有料広告は、8月に日本語教室ボランティア募集で利用し効果がなかったが、イベント参加募集では SNS 効果が見られた。

【気づき】

SNS の読者にとって、日本語ボランティアの参加はハードルが高いが、単発のイベントには気軽に参加できる。まずは関係者のすそ野を広げるのに SNS は効果がある。

ボランティアに興味がある人（Facebook 投稿に「いいね」をつける人）

↓

イベントに参加する人（月 1 回程度の参加）

↓

日本語ボランティアに参加する人（毎週日曜日の参加）

川島高校ボランティア部へ YIA 会長と渉外担当理事が訪問（12月26日）

- YIA 会長と渉外担当理事が川島高校を訪問、YIA の活動（交流イベント、日本語教室）を紹介し、生徒が活動に参加していただけるかを打診した。

川島高校では、毎年夏休みに Summer Challenge という活動をしており、その活動の 1 コマを YIA が担当してはどうかとの提案をいただいた。また進路での調査書にボランティア活動の記載はポイントになることもあり、生徒が YIA の活動に興味をもって個人的に参加することは問題ないとの意見を頂いた。

今後、Summer Challenge での YIA 参加について具体的な内容を話し合うことになった。

吉野川市の広報誌、徳島新聞「情報とくしま」へのイベント情報掲載（2月予定）

- YIA 広報担当理事が連絡役となり、吉野川市の広報誌、徳島新聞「情報とくしま」へのイベント情報掲載の準備を進めている。ただし吉野川市の広報誌は発行の 2 か月前に原稿が締切られることから、掲載は 2 月となる予定。

3. 今回の実践を通じて、地域日本語教育コーディネーターとして果たした役割

- 今回の課題解決に向けて、地域日本語教育コーディネーターだけの活動では限界があることを痛感した。
- 吉野川国際交流協会の協力を得て、初めて成果ある活動になった。
コーディネーターの役割は「協力者を見つけて⇒理解を求め⇒協働する」ことと改めて認識した。

4. 地域日本語教育コーディネーターとして自身が大切にしたい視点

- 私が大切にしたい視点は次の 2 点です。
 - ① 外国人が日本語教室にくることで居心地の良さを感じられること

② 日本人ボランティアが無理なく参加でき、活動を通じて充実感を感じられること

- その実現にあたり、地域日本語教育コーディネーターは、これらの環境作りのお膳立てをする黒子的な存在でありたいと考えています。

5. 実践において、難しいと感じたこと、今後に向け知りたいこと

- 地域日本語教育コーディネーターは世話役ではあるが、地域に精通した協力者なしでは成り立たない。私自身が、地域の人とのつながりをもっと強めたいと考えている。
- 今回活動は、YIA の協力を得て新しい取組がスタートした。しかし未だ成果は上がっていない。今後、効果を見極め、成果の上がったものは来年度も継続し、成果の出ないものは改善を模索したい。

以上